

## ポリスカレッジ

### 明るく元気な高齢社会のために

#### 1、京都府警×龍谷大学×保護司会の3機関連携

##### (1) 保護司会とは？

「社会奉仕の精神をもって、犯罪をした者の改善及び更生を助けるとともに、犯罪の予防のため世論の啓発に努め、もって地域社会の浄化を図り、個人及び公共の福祉に寄与することを、その使命とする」

法務大臣から委嘱を受けた非常勤の一般職国家公務員の事で、犯罪や非行に陥った人の更生を無給で行っており、その一環として犯罪予防活動なども行う。

→高齢者運転の事故防止にも意欲的に取り組んでもらえる事が期待できる

平成 31 年 1 月 1 日時点で全国に **47,245** 人で、平均年齢は 65 歳と年々上昇している。

年齢構成比では、60 歳以上が占める割合は **8 割** に迫る。

保護司会の方に自らも高齢の方が多く、「免許返納数を増やす」という事に偏らず「高齢者ドライバーの気持ちの尊重」を同じ目線に立って行える。

##### (2) どのように3機関が連携するのか？

龍谷大学の矯正保護センターが京都府警と保護司会の橋渡しとなり建学の精神の中の社会を繋いでいく

→それを元に、免許返納をイベント化することで人を多く集めることが出来る

→免許返納のマイナスなイメージを改善できる

#### 2、自主返納を考える機会の提供

制度内容を知ってもらい、自身の運転技術を客観視する機会が必要だと考える。

その機会として、イベントを行うのがいいのではないか。

##### (1) 二つのテスト

###### 1) 認知機能検査

認知機能検査を行う目的は、運転をするためには認知機能が必要であるから、それを簡易的に測るためである。現在、免許更新の際に行っているが、それとは別に気軽に検査できるものを実施する。

実施内容としては、HDS-R という検査を行う。これは、年齢、見当識、3単語の即時記銘と遅延再生、計算、数字の逆唱、物品記銘、言語流暢性の9項目からなる30点満点の認知機能検査である。HDS-Rは20点以下が認知症疑いで感度93%、特異度86%と報告されている。所要時間は6-10分。

実施方法は、1対1でチェックシートを元に質問形式で行う。

## 2) 実車テスト

参加者自身の自家用車を使用し行う

→受験者自身の自家用車を使うことで、より普段通りの運転を採点することが出来る  
対象は65歳以上の高齢者

内容は、普通自動車免許で運転することのできる受験者の自家用車を使用し、「運転免許技能試験実施基準」に準じて、12の項目より100点満点で採点を行う。

受験方法は、事前のインターネット予約・当日予約とする。

### ▶ 2つのテストで自分の運転を見つめ直す

認知機能検査と実車テストの結果を通して、今後運転を続けるか、または自主返納するか考えてもらう

## (2) ブースの設置

### 1) 龍大農学部体験ブース

中村保幸ゼミ：元気で長生きするための疫学の研究

石原健吾ゼミ：基礎栄養学と運動生理学の知識を活用したスポーツ栄養学の研究

→イベントに参加する高齢者の意欲の向上を図る

→高齢者の健康を促進

本イベントの免許返納のネガティブなイメージを軽減

### 2) 免許返納相談ブース

二つのテストを実施：自分の運転を見直す



返納済みの保護司会の方から話を聞く

交通課の方から返納について詳しく説明



主体的に返納について考える



自主的に返納し、後悔が無い

◎イベント参加者限定特典として、必要書類および郵送用封筒の配布

- ・後日警察署に書類および運転免許証を封筒に入れて郵送することで、返納することができるようにする
- ・運転経歴証明書の申請希望者には後日交付されるようにするまた、交付時に払込用紙を同封し、手数料を支払ってもらう

メリット→返納するために申請場所へ出向く面倒さがない

イベント参加後、実行しやすい

### 3、まとめ

3機関連携でのイベント実施：二つのテストとブースの設置



自主返納を考える機会の提供

自分の運転を見直し自主的に免許返納へ

→納得のいく運転生活を

運転するなら健康で安全に、運転をしない・不安なら返納へ

▶明るく元気な高齢社会へ